

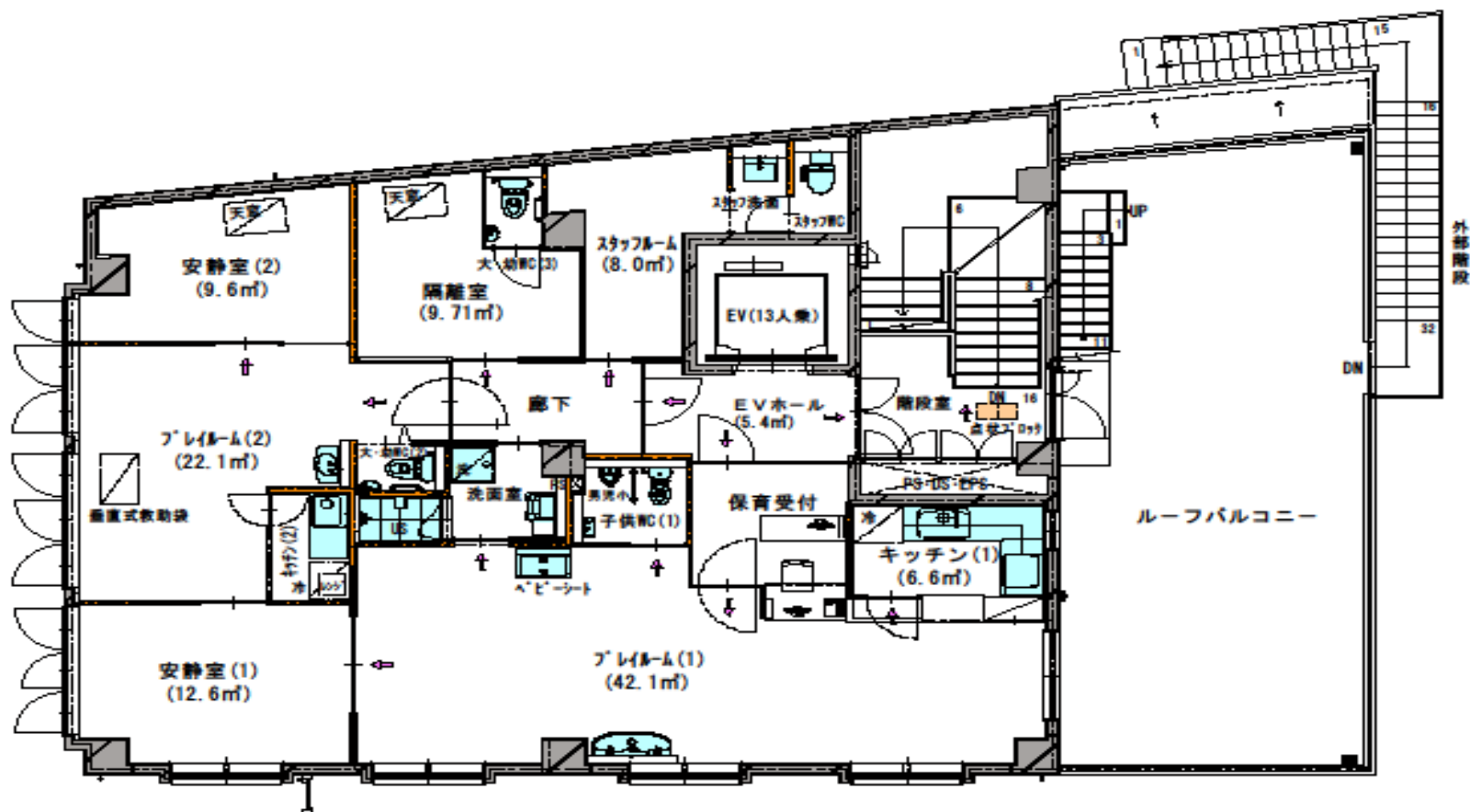
病児保育事業について

	病児対応型・病後児対応型	体調不良児対応型	非施設型(訪問型)
事業内容	地域の病児・病後児について、病院・保育所等に付設された専用スペース等において看護師等が一時的に保育する事業	保育中の体調不良児を一時的に預かるほか、保育所入所児に対する保健的な対応や地域の子育て家庭や妊産婦等に対する相談支援を実施する事業	地域の病児・病後児について、看護師等が保護者の自宅へ訪問し、一時的に保育する事業 平成23年度から実施
対象児童	当面症状の急変は認められないが、病気の回復期に至っていないことから(病後児の場合は、病気の回復期であり)、集団保育が困難であり、かつ保護者の勤務等の都合により家庭で保育を行うことが困難な児童であって、市町村が必要と認めた乳幼児又は小学校に就学している児童	事業実施保育所に通所しており、保育中に微熱を出すなど体調不良となった児童であって、保護者が迎えに来るまでの間、緊急的な対応を必要とする児童	病児及び病後児
実施主体	市町村(特別区を含む)(市町村が認めた者へ委託等も可)		
実施要件	看護師等:利用児童おおむね10人につき1名以上配置 保育士:利用児童おおむね3人につき1名以上配置 病院・診療所、保育所等に付設された専用スペース又は本事業のための専用施設等	看護師等を常時1名以上配置(預かる体調不良児の人数は、看護師等1名に対して2名程度) 保育所の医務室、余裕スペース等で、衛生面に配慮されており、対象児童の安静が確保されている場所等	預かる病児の人数は、一定の研修を修了した看護師等、保育士、家庭的保育者のいずれか1名に対して、1名程度とすること等
交付実績(H26年度)	1,271か所・病児対応型 698か所 ・病後児対応型 573か所 (延べ利用児童数 約57万人)	563か所	5か所
補助率	国 1 / 3 都道府県 1 / 3 市町村 1 / 3		

いなみ小児科 病児保育室ハグルーム



ハグルーム平面図



病児保育室 見取図 3 F

ハグルームの第一プレイルームと安静室



ハグルームの第二プレイルーム



病児保育事業の問題点

経営が困難

利用者変動

家賃の
負担

施設費・設
備費負担

キャンセル
の問題

2:1保育

看護師・保育士
の不足

施設間の連携

病児保育事業の充実に向けて

H26年度交付実績：延べ57万人

質の改善(平成27年度～)

- 1 病児対応型、病後児対応型について、利用の少ない日において地域の保育所等への情報提供や巡回など地域全体の保育の質の向上につながる機能を評価し、基本分補助単価の改善を行う。
- 2 体調不良児対応型について、看護師等2名以上配置としている実施要件を、看護師等1名以上の配置で実施できるよう改善を行う。

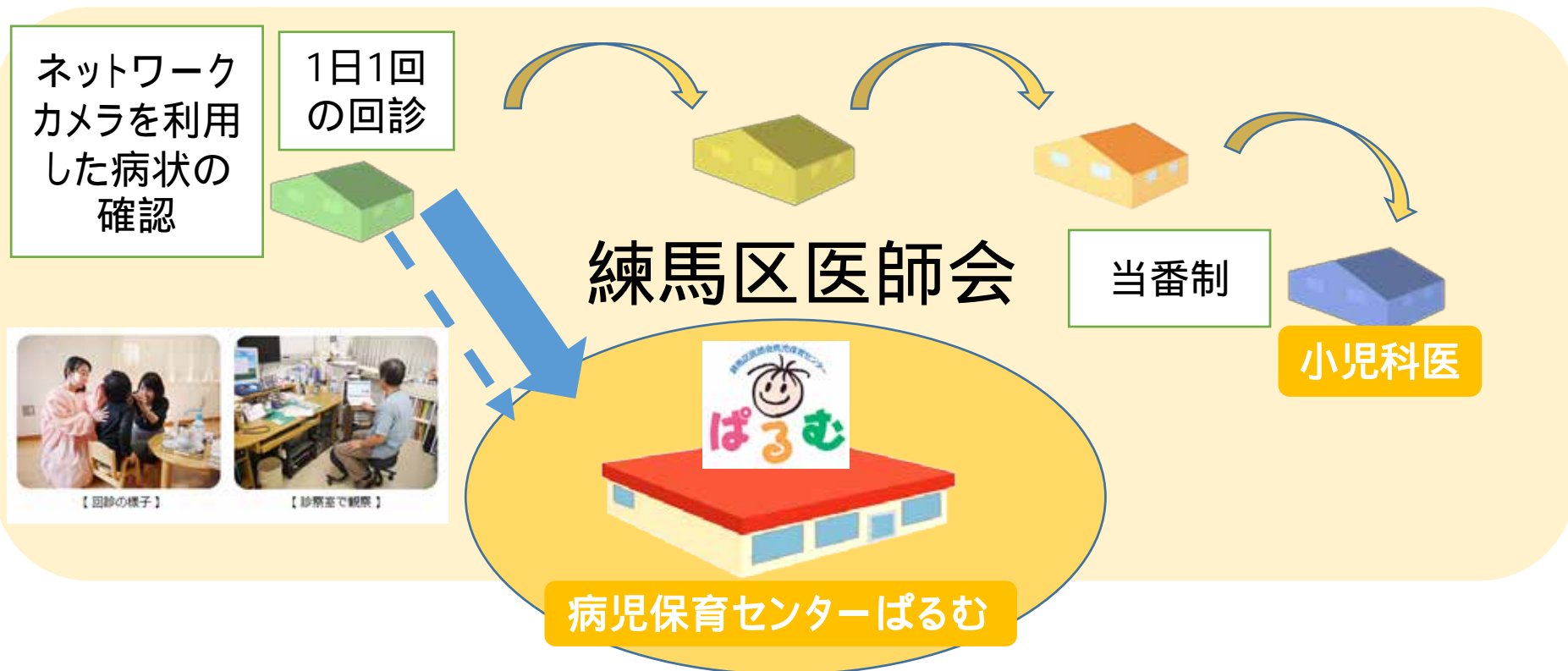


病児保育普及促進事業(平成28年度～)

目標：延べ150万人(H32年)

練馬区病児保育センターぱるむの事例

【医院併設型でない独立型の運営例】



- ㊦ 医師会が設立。医師は施設に常駐しないが、ネットワークカメラの活用及び回診(医師会の当番制)によって病状を確認
- ㊦ 区は回診に対する補助(年300万円)を実施
- ㊦ 毎日回診があることで、保育士、看護師の精神的な負担軽減
- ㊦ お母さんの安心につながる

病児保育普及促進事業

病児保育施設整備(子ども・子育て支援整備交付金) **新**

(事業内容)

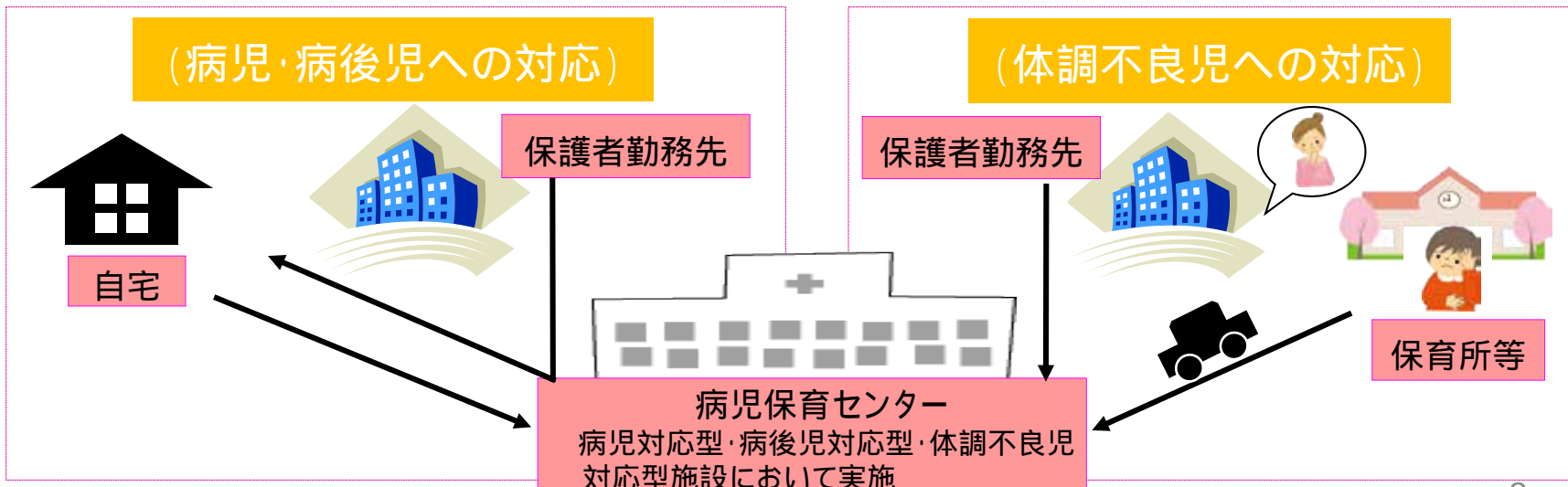
病児保育事業を実施するために必要となる施設・設備整備等に係る費用を補助する。
医療機関、保育所等の改修費、単独設置施設の整備費等。

病児保育センター(子ども・子育て支援交付金) **拡**

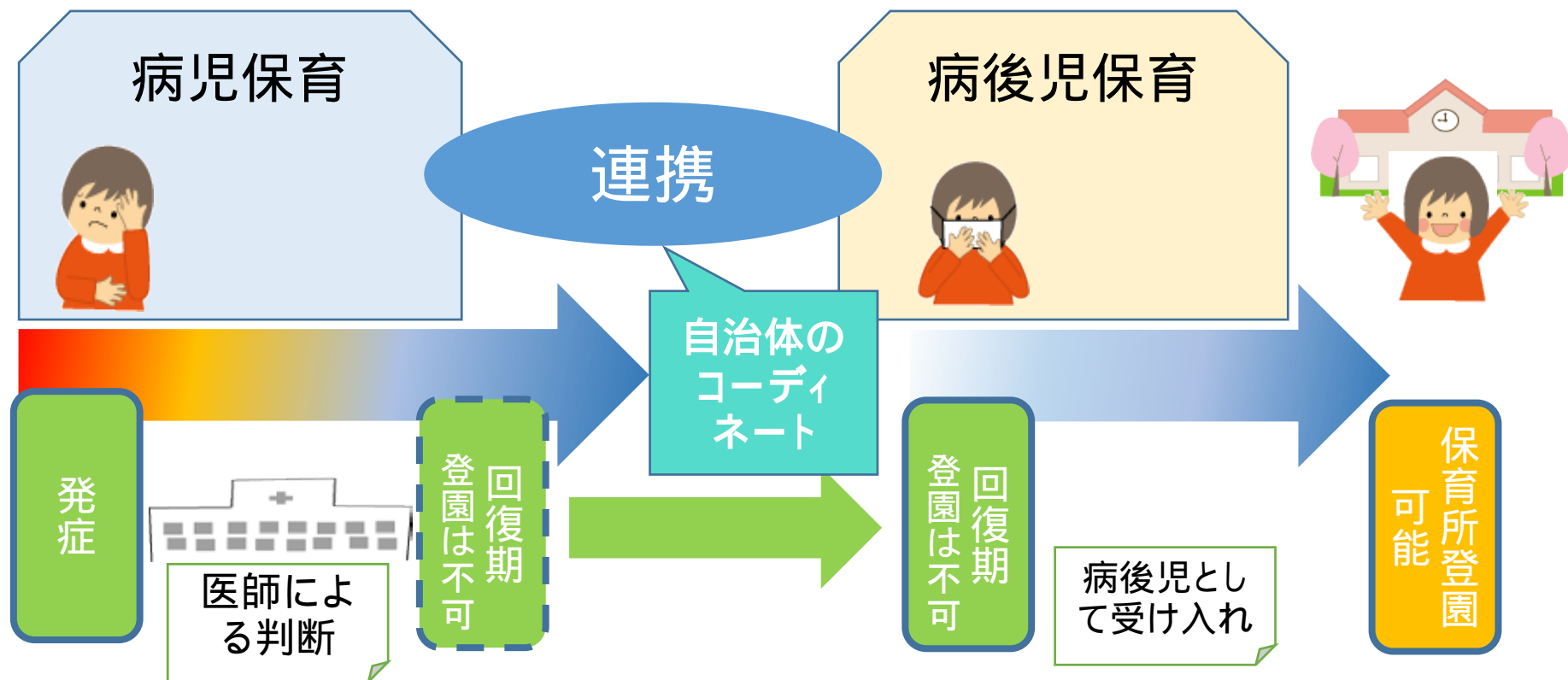
(事業内容)

病児保育の拠点となる施設()に看護師等を配置し、保育所等において保育中に体調が悪くなった体調不良児を送迎し、病児を保育するために必要となる看護師雇上費等を補助する。

(病児対応型、病後児対応型、体調不良児対応型施設において実施)



病児保育と病後児保育の連携(案)



- 病児保育の定員の有効活用
- 病児保育で受け入れている子どもで、登園は出来ないが、体調が回復し、看護は要しないと医師が判断した場合に、連携する病後児保育で受け入れることで、より体調管理が必要な子どもを受け入れることが出来る
- 施設間で調整することは難しいので、自治体に調整(コーディネーター)してほしい。